

胚移植と子宮内環境—良好な子宮内環境に受精卵を確実に移植する

SEET 法による子宮内環境の調整法

後藤 栄

- ▶ SEET 法は着床の窓 (implantation window) を広げ着床率を高める可能性がある移植方法である。
- ▶ 反復移植不成功例だけでなく、初回移植から適応しても良好な成績が得られている。
- ▶ 特に、凍結融解良好胚盤胞を HRT 周期で移植する場合は、SEET 法を併用するほうが妊娠率が上昇する。

はじめに

子宮内膜刺激胚移植 (stimulation of endometrium-embryo transfer : SEET) 法は、胚因子による子宮内膜の胚受容能の亢進による着床環境の改善を目的とした移植方法である。

胚移植による妊娠成立は、着床した胚が子宮内膜から栄養を受け、増殖し、胎盤形成を経て胎児として産まれる。この過程は、胚と子宮内膜との相互作用によって行われる。胚は着床後、子宮内膜から栄養を受け、増殖し、胎盤形成を経て胎児として産まれる。この過程は、胚と子宮内膜との相互作用によって行われる。胚は着床後、子宮内膜から栄養を受け、増殖し、胎盤形成を経て胎児として産まれる。この過程は、胚と子宮内膜との相互作用によって行われる。

SEET 法は、胚因子による子宮内膜の胚受容能の亢進による着床環境の改善を目的とした移植方法である。胚因子による子宮内膜の胚受容能の亢進による着床環境の改善を目的とした移植方法である。胚因子による子宮内膜の胚受容能の亢進による着床環境の改善を目的とした移植方法である。

SEET 法は、胚因子による子宮内膜の胚受容能の亢進による着床環境の改善を目的とした移植方法である。胚因子による子宮内膜の胚受容能の亢進による着床環境の改善を目的とした移植方法である。胚因子による子宮内膜の胚受容能の亢進による着床環境の改善を目的とした移植方法である。

SEET 法の方法・成績

SEET 法は、胚因子による子宮内膜の胚受容能の亢進による着床環境の改善を目的とした移植方法である。胚因子による子宮内膜の胚受容能の亢進による着床環境の改善を目的とした移植方法である。胚因子による子宮内膜の胚受容能の亢進による着床環境の改善を目的とした移植方法である。